

千羽鶴 (千羽鶴空麗)

へ頃は建久四ツの年 弥生の花の咲き満ちて 時を笑顔の賑ひは鎌倉山の星月夜 へ四海納る時津風 へ今日放生会の御催しに 頼朝公の下知を受け奉行の役は梶原源太 その他列座の大小名 威儀を正して控へ居る 所も広き由井ヶ浜 へ末座の雑色進み出で

へヤア／＼それに控へたる伏籠これへ持参せよ

へハット答へてあなたより 美を尽したる数多の伏籠 御前へ出せば斜めならず

へ丹頂の喜びさこそあらめ とく／＼放ち遣はせよ

へハツ

へ折柄空も花曇り サツと吹き来る浜風に 見る間に一天晴渡り 青海原の沖合に 漁る船の真帆片帆 時分は良しと景季が差図に従ひ解放せば 一度にどつと羽音して伸び上りたる千羽鶴 足に結びし短冊の光り朝日に輝きて ひら／＼ひら四方に舞ひ行く源氏山 御機嫌いとも麗はしく 御慰みの催しに

へ御供に列なる侍女千鳥 支度がよくば此所へ

へ幕打上げて立出づる 舞ひの姿の派手やかに 思はず源太と顔見合せ ハツと赤らむ桃桜芽出し柳のしとやかに へ色かへぬ いつも常盤の松葉ヶ谷その源の礎は 齡千歳の鶴ヶ岡 へ離れぬ仲の亀ヶ谷 要とたとふ雪の下 へ扇が谷と開けゆく その末広の長谷小路 へ月影ヶ谷月照りて 星の井筒にひらめきし白旗山の神の尊さ へ今日を晴着と楽しみに浜の真砂にことならぬ 大町小町人々が集ふて此処へ一群に へ相模ナア相模七里ヶ浜辺を越せば 西に富士ヶ根大磯小磯 へ沖にナア沖に江の島賑ふ船の 大漁祝ひに櫓拍子立て、エツシンシン勇ましいではないかいな へ日和長閑な大空に 扱も木の葉の散る如き へ放せし鶴のかしこより舞いくる／＼ へ大君の徳を慕ふや清元の枝葉も茂り幾歳の 家の栄えぞめでたけれ。